



レーサーそのものの迫力を誇示するように出たワークスオパーフェンダー、フロントスポイラー。今回のマシンの中では最も目立つマシンだった。エンジンは28ベースの3.2。ピストンは89・5mm、クランク・コンロッドはチャレンジャーオリジナル。バルブはイン44mm、エグゾースト36mm、ハイカム72、キャブレターはソレックス44φ、ミツシヨンはクロス、デフはファイナル3.9でノンスリップ、オイルクーラー付。ホイールはスピードスター、F10J・R12J、タイヤはダンロップのスリックでF、200/550、R、275/575、チューナーはチャレンジャー、オーナーは陸野さん。

ファイナル3.5のリミテッド、Z40Z用のミツシヨンのコ足、サイドマフラーが組み込まれている。赤く塗られたサイドマーカーと、エア・アウトレットで迫力を倍増させている。オーナーはF-1の源さん。



足まわりは強化サス・カヤバのショックで固める。アルミホイールはボルク、F6J、R6.5J、タイヤはFビレリ、R・ポテンザ205/60-13。リヤのシートを取り出し、自作で2シーターにする。藤田さん。



ミツシヨンは5速クロス。デフはファイナル3.7。アルミ板で加工されてインパネは、レーシングカーそのもので、運転席側にはタコメーターしかなく、スピードメーターは助手側に付く。オーナーは荒井さん。



チャレンジャーで手がけた数少ないロータリー車の1台。ブラックボディに、リヤスポイラーを付けている。エンジンは13Bサイドブリッジ加工、フライホイール軽量、ラジエター、キャブレターは48年のルーチエ用の物を流用。タコ足50φマフラーを付ける。

